

まちづくり市民懇話会

とことん懇話会

TOPICS

最終回となる第40回目もオンラインでの開催となり、前回の意見交換を振り返るとともに、行政の考え方を共有した後、ここまでのとことん懇話会を振り返り、感想や今の想いを共有するため全体で最後の意見交換をしました。



とことん1

到達目標 前回の意見交換を振り返り、あらためて意見交換を行いましょう。
また、最終回を迎えるにあたり、皆さん一人ひとりの感想や想いを共有しましょう。

前回の振り返りを行いながら、今後に向けて整理した考え方を共有しました。
その後、全体で最後の意見交換を行いました。

今後に向けて②

■前回の意見交換におけるキーワード

- 多くの市民がまちづくりの場へ参加するには、「最初のきっかけづくり」「先導者の存在」「無関心層の取込み」「テーマの特化」「情報公開」「目に見える成果（満足感）」が重要。
- 特に、若い人を巻き込むには、「若い人が求める関わり」「まちづくりに参加する若者を優先的に採用するなどの仕組み検討」「年代ごとの強みを活かした取組」を考えることが必要。

各地域や団体（地区市民協議会、町会、任意のまちづくり団体など）が今後のあり方を考えていく上での重要なキーワード・ヒントとなる。
また、行政としては、行政への市民参加を考える上で活用することはもとより、各地域や団体に対する支援を行う際にも、重要な視点となる。

今後に向けて③

■前回の意見交換におけるキーワード

- ① 市民と行政の関係については、「信頼関係の強化」「質問・意見に対する回答の見える化」「フラットな関係の意見交換の場」が今後求められる。
- ② 総合計画の進行管理の場について、「まずこの懇話会の総括が必要」「行政のアリバイづくりにならない場を」「生の意見をしっかりと吸上げることが重要」という意見。

事務局の考えとしては、

- ① については、行政として「できることから実行に移していく」ことが大切。
→例「質問・意見に対する回答の見える化」できるよう各課にはたきかけ
- ② についても同様に、
→リアルな市民の活動状況の把握、多様な意見を吸い上げる仕組み検討
→総括の上、基本計画の見直し時に、懇話会メンバーにお声がけ

■ 開催概要

第40回：令和4年10月30日（日）

場 所：オンライン+市役所（臨時オンライン会場）

参 加 者：市 民：現地オンライン 4名 オンライン 11名

若手職員：現地オンライン 5名

議 題：1. 今後に向けて（前回の振り返りと最後の意見交換）

2. 終わりに

とことん1・続

市民に関心を持ってもらうために
情報発信や「見える化」が重要

- 市民みんなに行き渡る情報発信が必要。目に見える、実行できるものが身近にあると、市民の関心度も違うと思う。話だけで終わるともったいないので、目に見える形で市民に示せるとよい。
- 市民協などの活動を「見える化」することが、参加意欲やつながりを持つきっかけになる。
- 市政に関心をもってもらうためには情報発信が必要。懇話会の参加経験者が市政を広めていく仕組みがあれば、広まるし、次につながる。

財政状況を意識することが必要

- 円安による財政を取り巻く社会状況の変化について考える必要がある。
- お金やモノの投げ方を意識すべき。また、だんじりの組織など一部のメンバーで防災やゴミをなくすプロジェクトなどを立ち上げ、磨き上げていくのが良い。

行政が仲介役となって市民や
団体をつなぐことが必要

- 若い人との接点や団体とのつながりが持てない状況がもどかしいので、「仲介役・接点づくり」を市にしてもらえると助かる。
- 町会の中で若者も高齢者も参加する懇話会のような「まちのことをみんなで考える」場があるとよい。個人で発言しても進みにくい、行政が入り、きっかけだけでも作ってもらえると話しやすくなると思う。

市職員の意識醸成が必要

- 市職員も岸和田市に住んで、そして岸和田のことをもっと前向きに考えてもらえればと思う。そうすることで市にとって良い施策を進めていける。
- 市職員それぞれが総合計画への意識（気構え）をしっかり持ってほしい。
- 人口問題（少子高齢化）については常に意識しながら市政を進めてほしい。

青年団のポテンシャルが高い

- だんじり祭のイメージを払拭できるよ、良いところを伝えてほしい。
- 災害など有事の際には、青年団が一番頼りになる組織になると思う。
- 青年団に入る年代が地域に残っており、まちのために動ける存在であることは岸和田市の資産・人材であると感じる。

懇話会などの進め方について

- はじめに、岸和田市の良いところと悪いところを深堀し、問題点について、現状はどうなっていて今後はどうしていかねばならないか、Q&Aをセットにして整理していけるとよかった。何を深堀もするかもみんなで決め、問題を解決するためにどうすればいいか、一つずつ潰して進めていけるとよかった。
- 会議は事務局任せではなく、テーマ設定の段階から市民や専門家が入って検討していく必要がある。

とことん2

懇話会後の参加市民・若手職員からの感想です



市民

- ・ この二年間、いろんな方とお話出来てとても勉強になりました。「岸和田」のことをいろいろ考えていらっしゃる方ばかりで、感心いたしました。
- ・ 市民参加を増やすのであれば、話し合った結果でどのように社会が変わったかわかる、「頑張ったら変えられるんだ」という成功体験が必要だと思う。
- ・ 多くの市職員がこういった場面に携われれば、より市政を真剣に考えるようになるのではと感じました。



若手職員